

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成17年度 国土交通大臣賞 受賞	受賞者名
	株式会社大林組 東京本社 地球環境室 (現：株式会社大林組 本社 環境部)
	所在地
	東京都港区

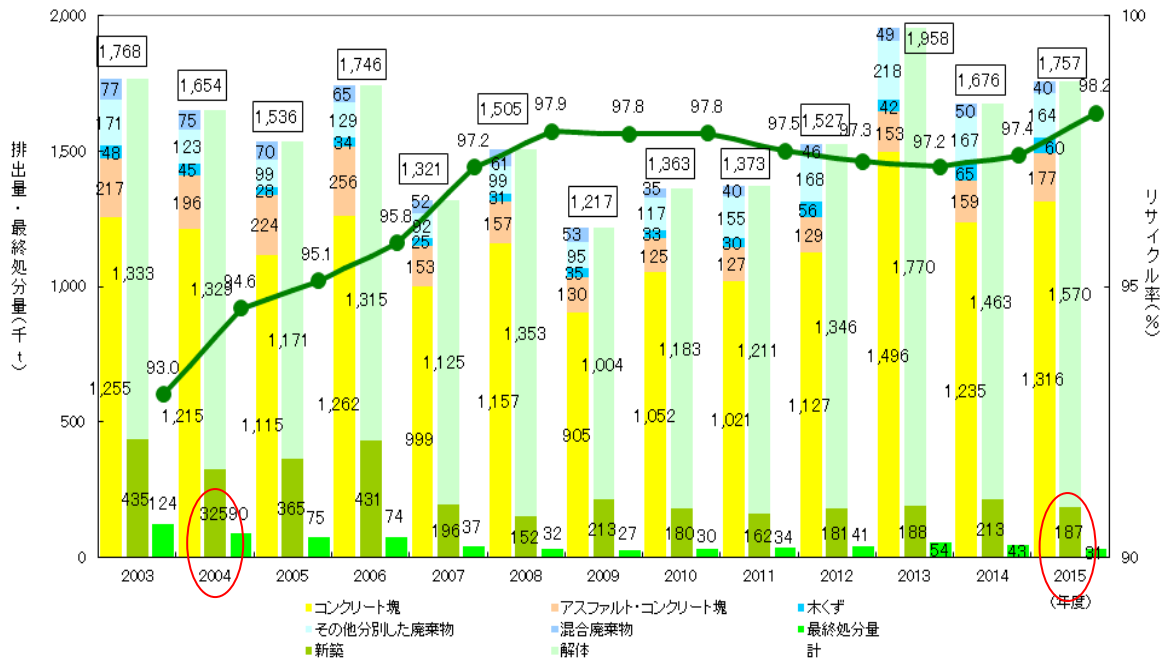
1. 活動継続 あり

1999 年度に業界に先駆けて建設現場のゼロエミッション活動の取り組みを開始して以来、現在迄継続している。

2. 活動の広がり あり

2005 年 5 月に国内の全建築現場で活動を開始後、同年 11 月に国内の全土木現場にも拡大、以降は国内全現場で取り組んでいる。

汚泥を除く新築工事の建設廃棄物排出量は、1999 年度の 59.4 万 t から 2004 年度には 32.5 万 t となっていたが、全現場での削減活動により、2015 年度には、18.7 万 t に減少した。



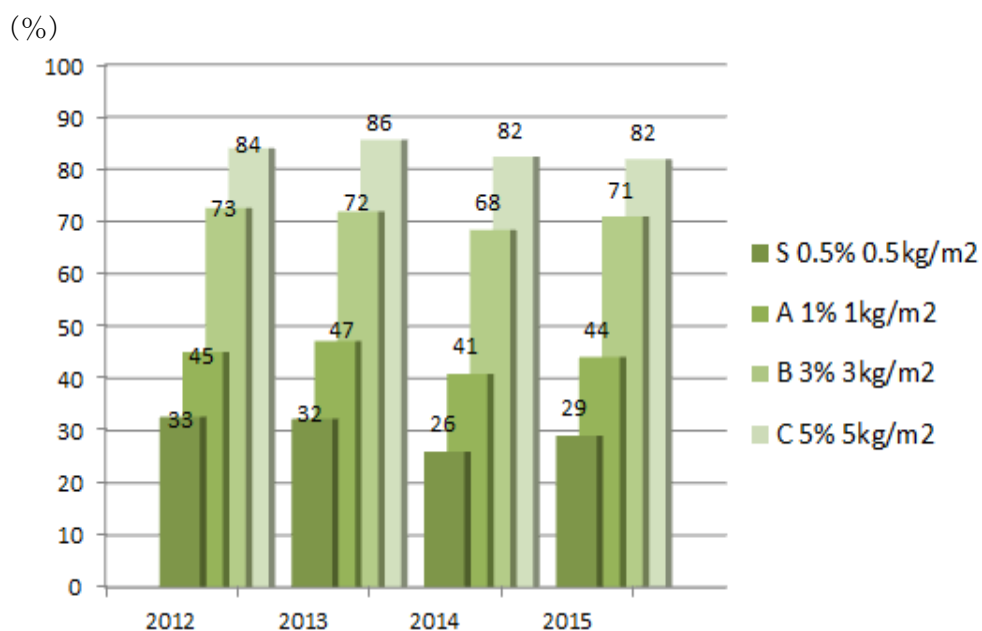
建設廃棄物排出量の推移（汚泥除く）

3. 活動の進化 あり

2012 年度よりゼロエミッションの達成基準を改訂し、工事の内容・規模（達成難度）により、S・A・B・C の 4 段階の達成基準を設けた。最高難度の S 基準では従来の基準（C）の 1/10 にレベルアップしている。

併せて、分別品目標準を設けて分別品目数の拡大を目指すとともに、一定規模以上の建築工事での発生抑制策検討を必須とし、一層の実績向上を目指している。

次頁にゼロエミッション達成率の推移を示す。



ゼロエミッション達成率の推移

S：最終処分率 0.5%未満 建築新築工事は左記または最終処分量 0.5 kg/m² 未満

A：最終処分率 1%未満 建築新築工事は左記または最終処分量 1 kg/m² 未満

B：最終処分率 3%未満 建築新築工事は左記または最終処分量 3 kg/m² 未満

C：最終処分率 5%未満 建築新築工事は左記または最終処分量 5 kg/m² 未満

4. 今後の計画

発生抑制の取り組みを促進するため、2015 年度より「施工高当たりの新築廃棄物排出量」を目標に取り上げ活動を進めている。「ゼロエミッション達成率」「汚泥を除くリサイクル率」は実績収集し、日常管理を行って最終処分量削減を目指し計画的削減活動を継続して進めている。

5. その他 特記事項

廃掃法改正で排出事業者による処理状況確認の努力義務が明確化され、処理施設の確認を条例で義務付けた自治体もあることから、適正処理の指標として、「処理施設の確認実施率」を2015 年度より目標に掲げて、処理状況の確認活動を推進している。

(次頁に表彰概要掲載)

【表彰概要】

項目	概要
受賞者名	株式会社大林組 東京本社 地球環境室
所在地	東京都港区
開始時期	1999年 11月
活動の区分	リデュース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 1999年度から建設現場のゼロエミッションに取組み、2001年度からゼロエミッション活動を全店（建築工事）に展開している。2004年度からは土木工事にも展開し、2005年度からは全建築現場でゼロエミッション活動を実施している。 現場ゼロエミッションを開始した当時と、昨年度迄の廃棄物排出実績を比較すると、新築工事の建設廃棄物排出量（汚泥を除く）は、1999年度の59.4万tが2004年度には32.4万tとなり、2002～2004年度の削減量の累計は約47万tと、大きな発生抑制効果を上げている。これをCO₂削減効果（収集運搬・中間処理の減）に換算すると、約5,700t-CO₂となる。
開始時期	1999年 11月
活動の区分	リユース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 建設発生土、建設汚泥、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊、木くずのリユース。 鉄骨の半自動溶接に使用する溶接用ワイヤのリールの再使用。従来の使用後廃棄を、メーカーに戻しワイヤを再巻き直しして再使用。 鉄骨梁の耐火被覆吹付時の養生シートの再使用。
開始時期	1999年 11月
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 建設汚泥、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊、その他がれき類、木くず、廃プラスチック、金属くず、ガラス陶磁器くず、廃石膏ボード、紙くず、混合廃棄物、有価物、他。 協力会社毎に、担当工事で使用する資材の種類と搬入量、使用資材毎に予想される廃棄物の種類と量、廃棄物毎の削減策と予想される削減量を記入して作成するゼロエミシート作成によって、再資源化ルートを予め計画的に用意出来る。 品目毎の分別容器に、廃棄物の具体的な例（資材の名称）や間違い易い例、注意点（濡れ・汚れ・糊付き不可、ガムテープ剥がす、金物外す、処理費がm³契約のため隙間無く詰める、等）、リサイクル後の製品、等を判り易いイラストで表示して、分別意識を高め、分別精度を向上させる。